機関リポジトリ入門

Q.1　そもそも機関リポジトリとは何ですか？

A.1　機関リポジトリ（または学術機関リポジトリ。Institutional Repositoryの日本語訳。レポジトリと表記されることもあります）とは、大学等の教育研究機関内で生産されたさまざまな知的生産物を電子的に収集、蓄積、保存し、機関内外に原則として無償で公開、発信するためにインターネット上に設置された電子書庫、情報発信拠点のことです。すなわち、京都大学の責任において設置される、京都大学の教育研究成果コレクションと呼ぶことができるでしょう。特にここ１～２年ほどの間に、世界的規模で構築が急速に進められています[1)]。学問分野によっては早くから、プレプリント・サーバとかe-Printアーカイブといったサーバが発達していますが、機関別か分野別かの違いを除いてはだいたい似たようなものと考えていいでしょう。

Q.2　知的生産物とはどのようなものを指しますか？

A.2　図書、プレプリント、学術雑誌掲載論文、紀要論文、学位論文、科学研究費報告書、学会発表資料、COE研究成果、実験データ、シンポジウム記録などの研究成果や、講義資料・教材といった教育資料、そのほか機関で収集されてきた貴重な資・史料なども対象として考えられるでしょう。学位論文、科学研究費報告書、学会発表資料などは重要な研究成果の割には目に触れる機会が少なく、利用しにくい資料ですので、リポジトリで電子的に利用できるようにすることは効果的でしょう。ファイル形式としては、テキスト文書、word文書、html、pdf、パワーポイントなどたいていのものは登録可能ですが、可能ならばpdfに変換することを推奨します。

Q.3　今なぜ機関リポジトリの設置が進んでいるのですか？

A.3　下記のような背景があります。

（１）シリアルズ・クライシス（Serials Crisis）

学術雑誌の価格は毎年値上がりを続けています。そのために大学図書館や研究者は購読を中止せざるを得なくなり、購読者数の減少がさらなる価格の高騰を招くという悪循環に陥り、日本の大学全体で雑誌への支出額が増えているにも関わらず、購読しているタイトル数が激減するという現象を引き起こしています（1980年代の終わりに40,000タイトルほどあったのが、2000年代になって20,000タイトル程度にまで減ってしまいました）。京都大学ではまだしも、中小規模の大学では研究に必要な文献の入手が非常に困難になっています。学術雑誌による情報流通が滞っているこの状況は研究者の立場から見れば、自分の研究成果に目を通してくれる読者が減少し、失われているということを意味しています。従来、商業主義主導の学術雑誌を中心に成り立ってきた学術コミュニケーションが崩壊する危険性をもはらんでいます。

（２）オープンアクセス運動

上述したように、商業主義主導の学術雑誌を中心とした学術コミュニケーションは行き詰まりを見せています。この閉塞状況を打開する手だてとして盛んになりつつあるのが、学術情報へ誰もが無料で障壁なくアクセスできるようにしようというオープンアクセスの動きです。これには２つの方法が実践されています。機関リポジトリは、下記②の受け皿として機能すると考えられます[2)]。

①オープンアクセス誌の発行

一つの方法が、掲載論文を無償で利用者に公開する電子ジャーナル＝オープンアクセ

ス誌を発行しようという動きです。オープンアクセス誌の普及状況は、スウェーデンのLund 大学が運営しているDOAJ（Directory of Open Access Journal）で概観することができ、2006年7月現在、2,300を超えるオープンアクセス誌が登録されています[3]。

②セルフアーカイブ

もう一つの方法は、著者が自分の研究成果を機関リポジトリや自分自身のホームページから無料で公開するセルフアーカイブです。ただ、学術雑誌に投稿した論文の著作権は出版社に帰属するのが一般的で、著者といえども自分の論文を自由にインターネットで発信することはできません。しかし最近では、そのことを著者に許諾する出版社が増えてきています。このような出版社をGreen Publisher、雑誌をGreen Journalと呼んでいます。

Q.4　Green Journalについてもう少し詳しく教えてください。

A.4　RoMEOプロジェクトの調査によれば、海外の学術雑誌の94%がプレプリント、もしくはポストプリント、もしくはプレプリントとポストプリントの両方をセルフアーカイブすることを許諾しています[4]。ただし、出版社がレイアウトした出版社版を登録することは基本的にできないので、査読が通って受理されることになった著者の手元にある最終確定稿（著者最終版）を登録することになります。

Q.5　機関リポジトリのメリットは何ですか？

A.5　登録することによってGoogle Scholar等のサーチエンジンを通して世界中から検索可能となり、より多くの研究者の目に触れ、教育研究成果のvisibility（可視性）を格段に高めます[5]。また、散逸しがちな電子的な知的生産物を貴重なコレクションとして大切に蓄積し、責任を持って後世へ継承していきます。さらに大学としても、教育研究成果を還元することによって、社会に対する説明責任を果たすと共に、先進的研究成果を迅速に公開することで、大学の知名度・ブランドイメージを高め、知の創造と発信という大学の使命を側面から支えることになります。

Q.6　個人や研究室のホームページで公開するのと、機関リポジトリに登録するのとではどう違うのですか？

A.6　どちらの場合もインターネットのサーチエンジンで検索できるという点においては変わりませんが、リポジトリに登録する際にはメタデータ（そのコンテンツに関するデータ。タイトル、作成者、キーワード、抄録など）を一緒に登録します。このメタデータをOAI-PMH（Open Archives Initiative Protocol for Metadata Harvesting）[6]という国際標準のプロトコルを使用して提供し、国立情報学研究所のJuNii[7]、ミシガン大学のOAIster[8]などの全国規模、世界規模のリポジトリにハーベストしてもらうことによってより広範に流布させ、検索される機会を増やすことができます。

Q.7　誰でも登録できるのですか？

A.7　京大の構成員、もしくは構成員であった人なら可能ですが、登録しようとするコンテンツの作成に関与した人でなければなりません。また、複数の著作権者がいる場合には、自分以外の著作権者から許諾をとっていただく必要があります。

Q.8　どのように登録するのですか？

A.8　将来的には、登録しようとする人にセルフアーカイブしていただくのが理想ですが、当面は附属図書館で代行登録することを考えています。登録しようとするコンテンツ（電子的形態）とそのコンテンツに関する情報（タイトル、著者、掲載誌、キーワード、抄録等）を電子メールで附属図書館電子情報掛宛てにお送りください。

Q.9　機関リポジトリに登録すると著作権はどうなるのですか？

A.9　著作権が附属図書館に移転するということはありません。ただし、コンテンツを複製してリポジトリのサーバに格納すること、ネットワークを通じて不特定多数に無料で公開すること、保存や利用の便宜のため複製・媒体変換することを附属図書館に無償で許諾してください。

登録希望、ご不明な点、ご質問等ありましたら、附属図書館電子情報掛まで気軽にお問い合わせください。（内線2618、dlkyoto@kulib.kyoto-u.ac.jp）

＜注＞

1）Registry of Open Access Repositories
<http://archives.eprints.org/>

2）BOAI（Budapest Open Access Initiative）は、オープンアクセス実現のためにこの２つの戦略があることを明確に提示して、その後の議論に多大な影響を与えました。
http://www.soros.org/openaccess/read.shtml>

3）DOAJ　<http://www.doaj.org/>

4）Journal Policies - Self-Archiving Policy by Journal
<http://romeo.eprints.org/>
SHERPA/RoMEO: Publisher copyright policies & self-archiving
<http://www.sherpa.ac.uk/romeo.php?all=yes>
日本の学協会の間ではまだあまり知られてなく、関心も低いようです。
「著作権の取扱いに関するアンケート」
<http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/ir/>

5）物理学分野で、オープンアクセスにした論文がオープンアクセスにしなかった論文の約5.6倍多く引用されたという統計結果が報告されています。
Stevan Harnad, Tim Brody, “ Comparing the Impact of Open Access（OA）vs. Non-OA Articles in the Same Journals ”, *D-Lib Magazine,* v.10, n.6（June 2004）
<http://www.dlib.org/dlib/june04/harnad/06harnad.html>

6）The Open Archives Initiative Protocol for Metadata Harvesting
<http://www.openarchives.org/OAI/openarchivesprotocol.html>

7）大学Webサイト資源検索（JuNii）
<http://ju.nii.ac.jp/>

8）OAIster
<http://oaister.umdl.umich.edu/o/oaister/>

＜参考文献＞

尾城孝一「機関リポジトリ」
（逸村裕，竹内比呂也編『変わりゆく大学図書館』，勁草書房，p.101-114，2005）

栗山正光「総論 学術情報リポジトリ」
（『情報の科学と技術』Vol.55, No.10，p.413-420，2005）

（附属図書館情報管理課）